

第2回 福岡空港回転翼機能移設事業に係る 環境影響評価事後調査委員会

(議事要旨)

日時：令和4年2月17日(木) 13:00～15:00

場所：福岡空港事務所 2F 会議室

出席委員：

田村 耕作 (日本野鳥の会 福岡支部 副支部長)

畠 佐代子 (全国カヤネズミ・ネットワーク 代表)

松藤 康司 (福岡大学 名誉教授)

吉久 光一 (名城大学 理工学部 教授)

<敬称略：五十音順>

議事要旨：

1. 福岡市環境影響評価に係る手続きの経緯について

- ・資料1「福岡市環境影響評価条例に係る手続きの経過報告について」について、事務局より説明を行い、内容の了解がなされた。

2. 環境保全措置及び事後調査(第2期：令和3年度)結果について

- ・資料2「令和3年度 事後調査計画について」及び資料3「環境保全措置及び事後調査結果(第2期：令和3年度)について」について、事務局より説明を行った。
- ・以下の質疑及び助言が行われ、事後調査結果について了解が得られた。

【個別的事項】

■資料2-P11

委員：今年度までの実施と来年度以降の計画は、実態に合うように修正すること。

事務局：承知した。

■資料3-P7

委員：全体的には低騒音化が進む傾向だと思うが、入れ替え時にどのようなものと入れ替わるのか不明なので、「低騒音型の機材となっている」は言い過ぎではないか。「同シリーズで比較」としているが、機材が大きくなると音も大きくなる傾向があることがメーカーの資料にも示されている。

事務局：表現を検討する。

■資料3-P8

委員：航空機騒音は問題なかったと考えている。環境基準を下回る結果を示す1つ目の●(黒丸)は重要。それ以外の●は小さな表記でも問題ない。3つ目と4つ目の●は表現を「第1期、第2期のそれぞれ」や「今回の全便数」等と表現するなど表現を見直すこと。

事務局：承知した。

委員：調査地点上空を飛行する全便数の飛行回数が「2倍」とした表現が唐突でわかりにくい。
なぜ2倍か。

事務局：2倍とした根拠の説明。

委員：よく理解できた。報告書に載せる等、表現の工夫をすること。

■資料 3-P9

委員：調査期間が事後調査第1期は連続2日間だが、第2期は連続でない理由はなにか。

事務局：超低周波音は風の影響を受けやすい。航空機騒音の7日間連続調査で超低周波音も測定し、風の影響が少ない2日間を抽出している。

■資料 3-P10～14

委員：超低周波音で参考値を越えている所があり、7日間のデータで分析するともう少し何かが見えてくるのではないか。

事務局：ドクターヘリや消防などの緊急出動時に超過しやすい傾向がある。(傾向を分析した(資料説明)。重量や機材での傾向は見られないため、飛行方法に大きく影響されていると考えられる。南側を利用した時と北側に離陸した時、風向きが北からの風の時(南側着陸時と北側離陸時)に超過する傾向がある。

委員：分析結果はよくわかった。

■資料 3-P20、28

委員：カヤネズミは結果良好である。チガヤ草地も良い状態で保たれている。草刈・除草による植生管理が重要であるため、継続して実施して欲しい。

委員：チガヤ群落へ植生が遷移してセッカの巣が確認されるなど、生態系も改善されていると考えている。今後もチガヤ群落の維持管理を継続して実施して欲しい。

事務局：承知した。

3. 環境保全措置手法の継承について

- ・資料4「草刈・除草マニュアル」について、事務局より説明を行った。
- ・以下の質疑及び助言が行われ、草刈・除草マニュアルについて了解が得られた。

【個別的事項】

■全般

委員：わかりやすく作成されている。ワークショップ等を行い、継承して行って欲しい。

委員：チガヤに架巢するホオジロやセッカの巣もカヤネズミの球巣に似ているので、セッカの巣の写真もマニュアルに追加すると作業員が判断しやすい。

事務局：承知した。

4. 今後の事後調査計画(案)について

- ・資料5「今後の事後調査計画(案)」について、事務局より説明を行い、内容の了解がなされた。

5. その他

- ・今後のスケジュールについて、事務局より説明を行った。

以上